

2024年度決算説明会（2025年5月22日開催）

質疑応答書き起こし

質問1 2024年度の業績について、他の電炉メーカーが減益している中で、貴社は経常利益150億円もの過去最高益を出すことができたのはなぜか？何が好調だったのか？

回答1 当社では、太径高強度がメインのネジテツコンなど高付加価値の鉄筋を提案・提供することや、比較的、原材料価格の変動影響を受けにくい鉄筋関連商品の拡販を行うことで、市況変動があっても相対的に高い業績確保が可能となるような取り組みを行っております。それが他社との差別化に繋がっているのではないかと考えております。

質問2 2025年度の業績予想について、出荷数量がそれほど落ちず、鉄スクラップ価格も大きく上昇しないのであれば、2025年度も前期の2024年度並みにいくのではないかと？業績予想は控え目すぎではないか？

回答2 当社の属する電炉小棒業界は、製品価格や原材料である鉄スクラップ価格が市況により大きく変動する業界であり、市況変動自体を当社自身でコントロールすることが困難であることから、業績予想の難しい業界と言えます。
このような状況の中で、業績予想につきましては、発表する段階での入手可能な情報に基づき作成しており、控え目、楽観的、予想が甘い、ということはありませんが、引き続き精度の高い業績予想の策定に努めてまいります。
なお、業績が大きく変動する場合には、必要に応じて業績予想の修正を適時に行ってまいります。

質問3 今後の建設需要をどう見ているのか？

回答3 首都圏における需要は、再開発案件や物流倉庫などが堅調に推移すると見られますが、他地区は、全国的に減少が予想されます。
さらに、諸資材高騰や、人手不足による工事の見直し・遅れも考えられるため、需用的には前年並みもしくは微減で推移するのではないかと考えております。

質問4 2025年5月7日に公表した、10億円、25万株を上限とした自社株買いの考え方を教えて欲しい。今後、定期的な実施を行うのか？

回答4 説明資料にもありますように、「株主還元」につきましては、現行の中期経営方針の重点課題として位置付けております。

自社株の取得につきましては、「機動的に実施」としてしておりますが、これまで5億円上限の取得を4回実施してございまして、現在実施してございまして10億円は過去最大となります。

取得の規模や時期に関しましては、足許の業績の推移、資金ポジション、設備投資の状況等を総合的に勘案し、その都度決定して参ります。

質問5 2025年度の販売数量の見通しはいかがか？

回答5 RC造の着工床面積などの統計指標を見れば、棒鋼の需要増はあまり期待できないものとなっております。

ただし、当社ではお客様にとって省力化となる技術提案を強化し、中小案件や地方案件についても営業強化していくことで、前期並みの販売数量を確保できるような計画を立てております。

質問6 2025年度の販売単価と鉄スクラップ価格の見通しはいかがか？

回答6 鉄スクラップ市況は、昨年(2024年)8月頃から下落し、その後も同水準で推移しております。その一方で、棒鋼市況は、需要の少なさと鉄スクラップ価格下落に応じて徐々に下降傾向となっております。当社といたしましてもメタルスプレッドの縮小を懸念しております。そのため、メタルスプレッドの確保に向けて販売価格の維持に注力し、収益改善策を講じていくべく取り組んでおります。

鉄スクラップは現在のところは上昇となる材料は少ないと見ておりますが、すぐに弱含みから強含みに転じることも多いため、決して楽観視はしておりません。

質問7 鉄スクラップ価格が上昇するとしたら、こういった要因が考えられるか？

回答7 要因としては、

- ① 高炉メーカーによる鉄スクラップ調達量の増加
- ② 他電炉メーカーの増産による鉄スクラップ調達量の増加
- ③ ベトナム、バングラデシュなどのアジア諸国による日本産スクラップへの引き合いの増加
- ④ 為替の円安
- ⑤ 解体工事減少による鉄スクラップ発生量の減少

などが考えられます。

また、これらの要因以外にも、米国の関税政策の成り行きや、戦争・紛争などの地政学リスクによっても、動きがあるかもしれないと考えております。

質問8 米国の関税政策の影響はあるのか？

回答8 当社は米国への製品輸出は行っていないため、直接的な影響はほとんどないと思われま。ただ、間接的な影響を受ける可能性はあると思います。米国の政策による貿易摩擦の深刻化などで国内景気が悪化した場合には、建設市場や鉄筋需要の縮小により、当社業績が影響を受ける可能性はあると考えます。

質問9 為替円高はどのように影響するか？

回答9 鉄スクラップはいまや国際商品化しているため、為替が円高に進んだ場合、国内スクラップの輸出を抑制することで市況価格にも影響を及ぼす可能性はあります。ただしスクラップ価格は、国内の供給・需要動向や、海外市場の動向にも影響を受けるもので、為替要因だけで価格が変動するわけではないと考えております。

質問10 鉄筋は地産地消だと聞くが、ネジテツコンが全国展開できているのはなぜか？

回答10 当社では栃木県にある本社工場と青森県にある八戸工場の2拠点をネジテツコンを生産している他、沖縄県と北海道にある電炉メーカー2社と製造委託契約いわゆるOEMを締結し、全国ネットワークを展開しております。これにより全国への安定供給体制の構築と、お客様への納期対応力の向上やサービス機能を充実させることができていると考えております。

質問 11 御社では大口の設備投資は何を計画しているのか？

回答 11 中期経営方針では、200 億円と多額の設備投資を計画しておりますが、本社工場の集塵機更新と、太陽光発電設備導入は既に実施済みです。

25 年度は、栃木県小山市本社工場の近隣に、総額 50 億円の新製品倉庫を建設中で、それ以降では本社工場において変圧器更新などの大型設備投資を計画しております。

質問 12 株価上昇に向けて、また PBR 1 倍以上を目指して、御社はどのような対応を実施していく考えか？

回答 12 引き続き既存事業における収益力の強化を進めて、利益水準を引き上げ、株主還元の実現を図るとともに、この既存分野からの利益をもとに、新たな成長分野の開拓を進め、株価の評価に成長性が反映されるような事業展開を進めていきたいと考えております。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません